

国語復習プリント②

- 1 次の各文の「」を、漢字で書きなさい。
 1 冬に【アツ】いお茶を飲む。
 2 書店で【アツ】い本を購入する。
 3 今年の夏は去年より【アツ】い。
 4 命の安全を【ホシヨウ】する。
 5 商品の品質を【ホシヨウ】する。
 6 地震での損害を【ホシヨウ】する。
 7 関係者【イガイ】立ち入り禁止。
 8 彼は【イガイ】に背が高い。

- 2 次の1〜5の熟語の組み立ては、あとのア〜オのどれにあたるかを考え、記号で答えなさい。

- 1 細心
 2 優劣
 3 国立
 4 出題
 5 永久
 ア 同じような意味の漢字を重ねたもの。
 イ 下の字が上の字の目的語になっているもの。
 ウ 上の字が下の字を修飾しているもの。
 エ 反対または対応の意味を表す字を重ねたもの。
 オ 主語と述語の関係にあるもの。

- 3 次の各文中の傍線部の動詞の活用の種類は、何行何活用かを答えなさい。

- 1 父が家から出てくると思いました。
 2 目の前に車が止まる。
 3 勉強するときは集中してやろう。
 4 朝だぞ。いいかげんに起きろ。
 5 もう彼は来ないだらう。

- 4 次の各文中の傍線部の助動詞「れる・られる」は、どのような意味か。あとのア〜エから選びなさい。

- 1 都会で遠い故郷のことが思い出される。
 2 教室に校長先生が来られた。
 3 つまみ食いをして、母に怒られた。
 4 これくらいなら覚えられるだろう。
 ア 受身 イ 尊敬 ウ 自発 エ 可能

- 5 次の各文中の傍線部の言葉は、どのような敬語表現か。あとのア〜ウから選びなさい。

- 1 これが、昨日、おたずねになつた本です。
 2 おいしそうですね。いただきます。
 3 いろいろご心配をかけました。
 4 本日はたいへん、暑うございます。
 5 父もよろしくと申しておりました。
 ア 尊敬語 イ 謙譲語 ウ 丁寧語

- 6 次の四字熟語の意味として適当なものを、あとのア〜カから選びなさい。

- 1 漱石枕流
 2 呉越同舟
 3 臥薪嘗胆
 4 画竜点睛
 5 南船北馬
 6 空前絶後
 ア 仲の悪い者どうしが同じ場所にいること
 イ 今までに一度もなく、これからは起こらないようなまれな出来事。
 ウ 将来の成功を期して長い間苦勞すること
 エ 負け惜しみが強いこと
 オ 物事の最後に大事な仕上げをすること
 カ あちらこちら旅をしてまわること

- 7 次の各語の「」にあてはまる言葉を、() から選んで書きなさい。

- 1 虫酸が「」 (逃げる 走る 上がる)
 2 相好を「」 (崩す 流す ひそめる)
 3 肝を「」 (静める 冷やす 起こす)
 4 逆鱗に「」 (構える 過ぎる 触れる)

- 8 次の説明に対応する表現として適当なものを、あとのア〜エから選びなさい。

- 1 余分なもの、不要なもの
 2 狭い知識にとらわれて、広い視野で物事を見られないこと
 3 小さな差はあるが、たいした変わりはないこと
 4 苦勞して勉学に励むこと
 ア 五十歩百歩
 イ 井の中の蛙
 ウ 螢雪の功
 エ 蛇足

- 9 次の語句の意味として適当なものを、あとのア〜ウから選びなさい。

- 1 常套句
 2 逆説
 3 造詣
 4 ジレンマ
 5 カテゴリー
 ア 真理に反するようで実は真理を言い表していること
 イ ある場面でいつも決まって使うことば
 ウ 分類。部門。種類。範疇。
 エ ある分野に知識が広く、理解が深いこと。
 オ 苦しい立場。進退きわまること。板挟み。

10 次のいろは歌の空欄をそれぞれひらがな五字で補いなさい。

いろはにほへと
「 ① 」
わかよたれそ
「 ② 」
うゐのおくやま
「 ③ 」
あさきゆめみし
「 ④ 」

11 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

これも今は昔、天曆てんりやくのころほひ、浄蔵じやうざうが八坂やさかの坊に、強盗その数入り乱れたり。A然しかるに火をともし、太刀たちを抜き、目を見張りて、おのおの立ちすくみて、①更さらにする事なし。かくて数刻を経ふ。夜よBやうやう明あけんとする時、ここに浄蔵、本尊ほんぞんに啓けい白びやくして、「早く②許ゆるし遣つかはすべし」と③申しけり。その時に盗人ども、④いたづらにて逃げ帰りけるとか。

〔宇治拾遺物語〕

注 ※啓白 つつしんで申し上げること。

1 二重傍線部A・Bの意味を答えなさい。

2 傍線部①～③の主語を、それぞれあとのア～エから選びなさい。

- ア 浄蔵法師
- イ 強盗
- ウ 本尊の仏
- エ 作者

3 傍線部④の解釈として最も適当なものを、あとのア～エから選びなさい。

- ア むなしくなつて
- イ することがなくて
- ウ 悪ふざけをして
- エ 何も盗らずに

4 本文の内容に合っているものを二つ、あとのア～エから選びなさい。

- ア 浄蔵法師は仏と通じる不思議な力をもっていた。
- イ 本尊の仏は強盗を改心させるために縛りつけていた。
- ウ 強盗は本尊の仏の優しさに触れて深く反省した。
- エ 浄蔵法師は強盗が反省する姿を見て逃がしてやった。
- オ 強盗は浄蔵法師の慈悲によって逃げ出すことができた。

12 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

むかし、若き男、Aけしうはあらぬ女を思ひけり。さかしらする親ありて、思ひもぞつくとしてこの女をほかへ追ひやらむとす。さこそいへ、まだ追ひやらす。人の子なれば、まだ心Bいきほひなかりければ、とどむるいきほひなし。女も①いやしければ、すまふ力なし。さる間に、②思ひはいやまさにまざる。にはかに、親、この女を追ひうつ。男、血の涙をながせども、③とどむるよしなし。④あていでいでいぬ。男、泣く泣くよめる。

いでていなばたれか別れのかたからむありしにまざるけふは悲しも

とよみて絶え入りにけり。

〔伊勢物語〕

1 二重傍線部A～Cを現代かなづかいにして、すべてをひらがなで書きなさい。

2 傍線部①「いやし」の意味を答えなさい。

3 傍線部②の「思ひ」についての説明として最も適当なもの、あとのア～エから選びなさい。

- ア 親の、息子への思い
- イ 息子の、親への思い
- ウ 男と女のお互いの思い
- エ 女の、男への思い
- オ 男の、女への思い

4 傍線部③について、だれが、だれを「とどむるよしなし」なのか答えなさい。

13 次のように番号順によむことができるように、返り点を書きなさい。

- 1 ① ② ⑦ ③ ⑥ ④ ⑤。
- 2 ① ③ ② ⑤ ④。
- 3 ④ ③ ② ①。
- 4 ② ① ⑥ ③ ④ ⑤。

5 1 ①
「熱」
「保証」

6 2
「厚」
「補償」

7 3
「暑」
「以外」

8 4
「保障」
「意外」

1 ②
「ウ」

2 「エ」

3 「オ」

4 「イ」

5 「ア」

4 1 ③
「カ」行 上二段 活用
「ダ」行 下二段 活用
「ラ」行 五段 活用
「カ」行 変格 活用
「サ」行 変格 活用

1 ④
「ウ」

2 「イ」

3 「ア」

4 「エ」

1 ⑤
「ア」

2 「イ」

3 「ア」

4 「ウ」

5 「イ」

1 ⑥
「エ」

2 「ア」

3 「ウ」

4 「オ」

5 「カ」

6 「イ」

1 ⑦
虫酸が「走る」
3 肝を「冷やす」

2 相好を「崩す」
4 逆鱗に「触れる」

1 ⑧
「エ」

2 「イ」

3 「ア」

4 「ウ」

1 ⑨
「イ」

2 「ア」

3 「エ」

4 「オ」

5 「ウ」

① ⑩
「ちりぬるを」

② 「つねならむ」

③ 「けふこえて」

④ 「ゑいもせず」

1 ⑪
A 「ところが」

2 ① 「イ」

② 「ウ」

③ 「ア」

3 「エ」

4 「ア」

・ 「オ」

1 ⑫
A 「けしゅうはあらぬ」

2 「身分が低い」

3 B 「いきおい」

4 「男」

C 「いでいでて」

「女」

「を」

⑬

1 ①
②
⑦
③
⑥
④
⑤
①
③
②
⑤
④

3 ④
③
②
①
②
①
⑥
③
④
⑤